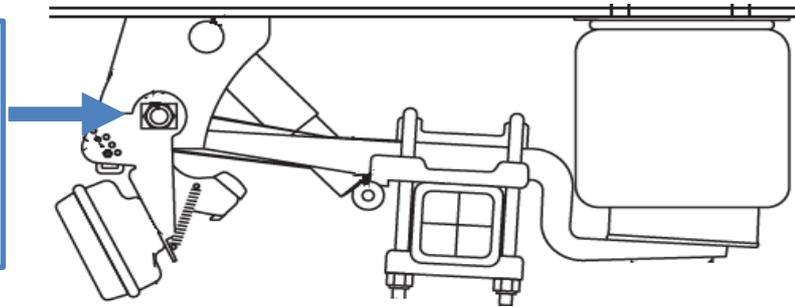


エアサスペンショントレーリングアームのピボットボルト増締めについて

エアサスペンション取付部及び連結部の緩み並びに損傷点検は、法定点検項目になります。
 ➡特にトレーリングアームピボットボルト(アジャストボルト)は3ヶ月点検ごとに増締めをして下さい。

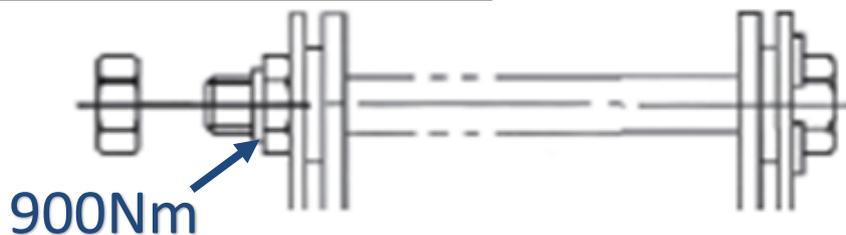
トレーリングアーム
ピボットボルト
(アジャストボルト)
※3カ月ごと増締め



※以後ピボットボルトに省略

➡増締め方法

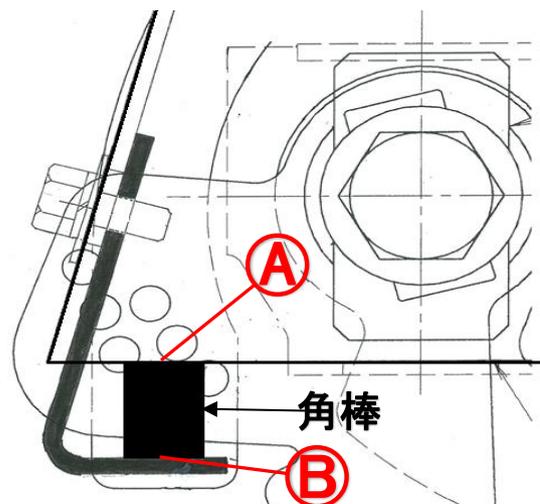
1. ハードロックナットの外側ナットを外して下さい。
2. ハードロックナットの内側ナットを締め付けて下さい。
 締付トルク BPW製 M30 ピボットボルトの場合 900Nm



★注意 ハードロックナットの内側ナットを締め付ける時は、必ず外側ナットを外して締め付け下さい。

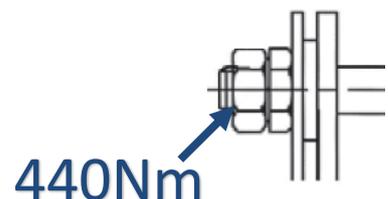
★ポイント 締め付け時、**図の(A)と(B)の位置がしっかり密着している**ことを確認。

※リフトアクスル状態で締め付けると図(A)が密着し易い。



※年式により、図(B)の固定方法が違います。

3. ハードロックナットの外側ナットを締め付けて下さい。
 締付トルク BPW製 M30 ピボットボルトの場合 外側ナット440Nm
 ※内側ナットを押さえずに、外側ナットだけ締め付けて下さい。



➡走行中のバウンドなどによって、ウェアプレートが摩耗するため増締めが必要です。
この摩耗分軸力(締め付ける力)が低下するため、各部の固定が弱くなり**早期摩耗**や**異常摩耗**になります。

➡ピボットボルト増締めがされていない場合の事例を下記に示します。

不具合例

【ウェアプレート摩耗】

新品



摩耗



ウェアプレートの摩耗
(トレーリングアーム
ブッシュとの当り面)

【増締めされていないため、
ピボットボルトの摩耗が大きい事例】



ピボットボルトの摩耗
(ハンガーボスとの当り面)

【ハンガーボスとスプリングハンガーの溶接を伴う修理が必要な場合】



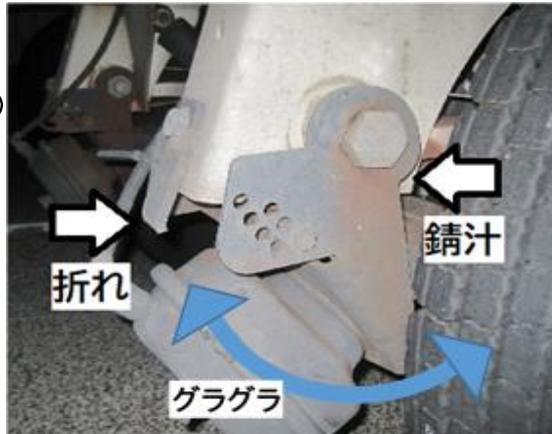
ハンガーボスの摩耗
(ピボットボルトとの当り面)



ハンガーボスの穴が広がって
しまうと、ハンガーボス交換が
必要になってしまいます。
写真は、ボスの溶接ビードを切断
して摩耗したボスを取り外した
写真です。
新品ボスを再溶接して固定する
作業が必要になります。

➡車両からのサイン(リフトアクスル装着車の場合)

◎



◎



1. ◎写真の様にリフトアクスルチャンバブラケットの**グラつき**は、**軸力低下(緩み)のサイン**です。
※通常リフトアクスルチャンバブラケットは、ピボットボルトの締め付けによって固定されています。
手で動く場合は、摩耗が進行しておりますので、分解して内部の修理が必要になります。
2. ◎写真の**錆汁**も**ピボットボルト軸力低下のサイン**です。
※早急に増締めをして下さい。

☆定期点検ごとの増締めをお願いいたします。

→通常トルクレンチでも増締め可能ですが、
工具振り幅が必要なため
地下ピット又はジャッキアップが必要です。



増締め作業を迅速にするために、

→専用倍力レンチセットを設定しました。
ジャッキアップ不要、一人作業にて締め付け可能です。

倍力レンチセット弊社 アフターマーケット部 にて販売中



※購入、価格のお問合せは
弊社アフターマーケット部
TEL050-3367-7453
FAX0533-78-3638
までお願いします。

※倍力レンチ使用方法の
お問合せはサービス課
TEL050-3367-7494
までお願いします。

本紙に関するご質問等は日本トレクス株式会社サービス部まで。(TEL:050-3367-7494 FAX:0533-78-3137)

日本トレクス株式会社

サービス部

承認



審査



担当



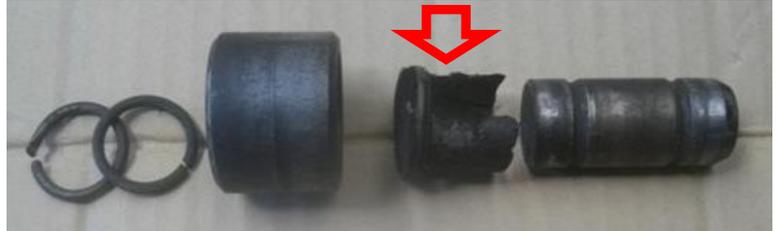
補足資料① 3ヶ月点検時 エアサスペンションその他の整備ポイント

1. リフトアップ用チャンバーへの給脂 (リフトアクスル装着車のみ)

→チャンパーローラーへの給脂を3か月ごとに実施して下さい。



不具合例 ローラー内のブッシュが摩耗し回転しなくなる



→チャンパーブッシュロッドへの給脂を3ヶ月ごとに実施して下さい。



※油脂はスプレーグリス(2硫化モリブデン入り)が望ましい
 ※ローラーのブッシュが磨耗して、ローラーの動きが悪くなりましたらローラーAssyの取替えをお願いいたします。

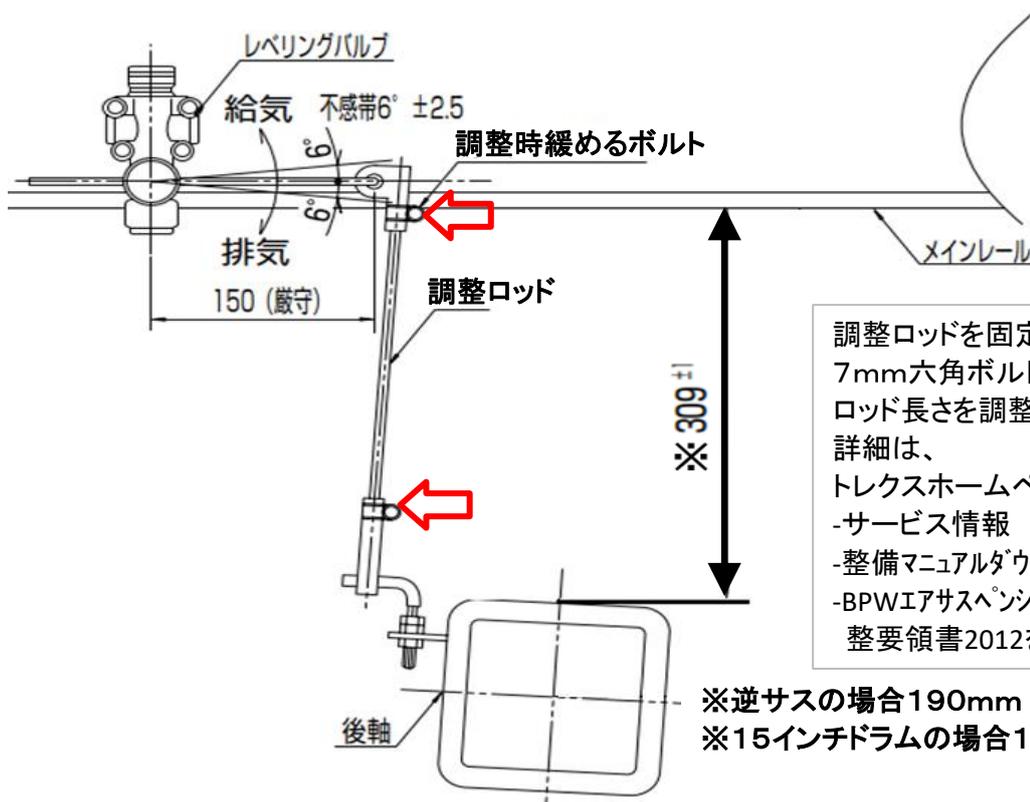
- ・ローラーAssy 部品番号 910015-00090
- ・リフトアクスルチャンパーAssy 部品番号 910015-00069 (ローラーAssy付き)

2. 車高点検

→タイヤのリフト高さが低い場合は、レベリングバルブにて車高を確認・調整して下さい。

(車高が下がり、見かけのリフトアクスル量が少なく見える場合があります。)

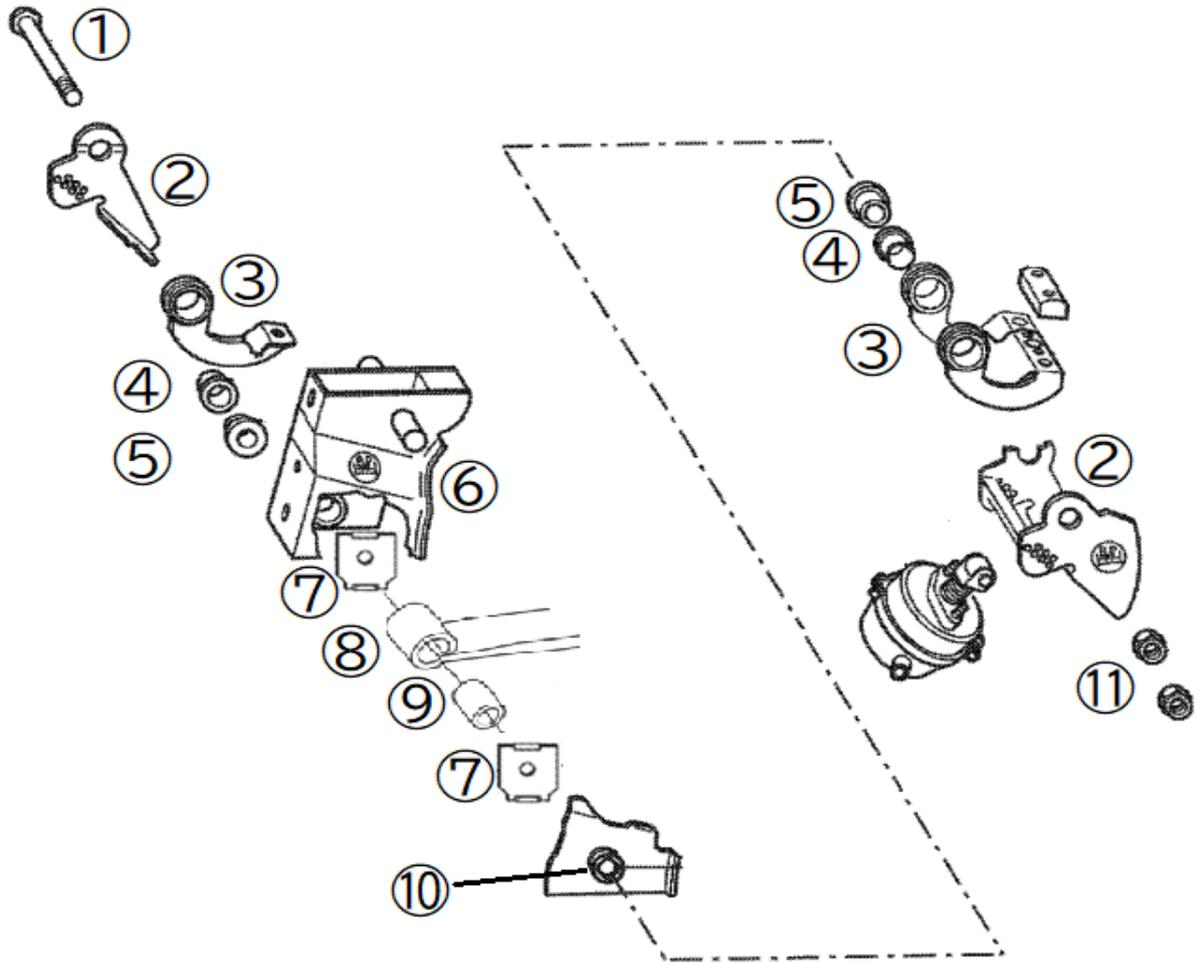
トレーラへの供給エア圧力が0.7Mpa以上の状態にて、メインフレームの下部より車軸上部の距離が309mmとなる様に調整ロッドの長さを調整して下さい。



調整ロッドを固定している7mm六角ボルトを緩めてロッド長さを調整して下さい。詳細は、
 トレクスホームページ
 -サービス情報
 -整備マニュアルダウンロード
 -BPWエアサスペンションリフトアクスル 整要領書2012を参照下さい。

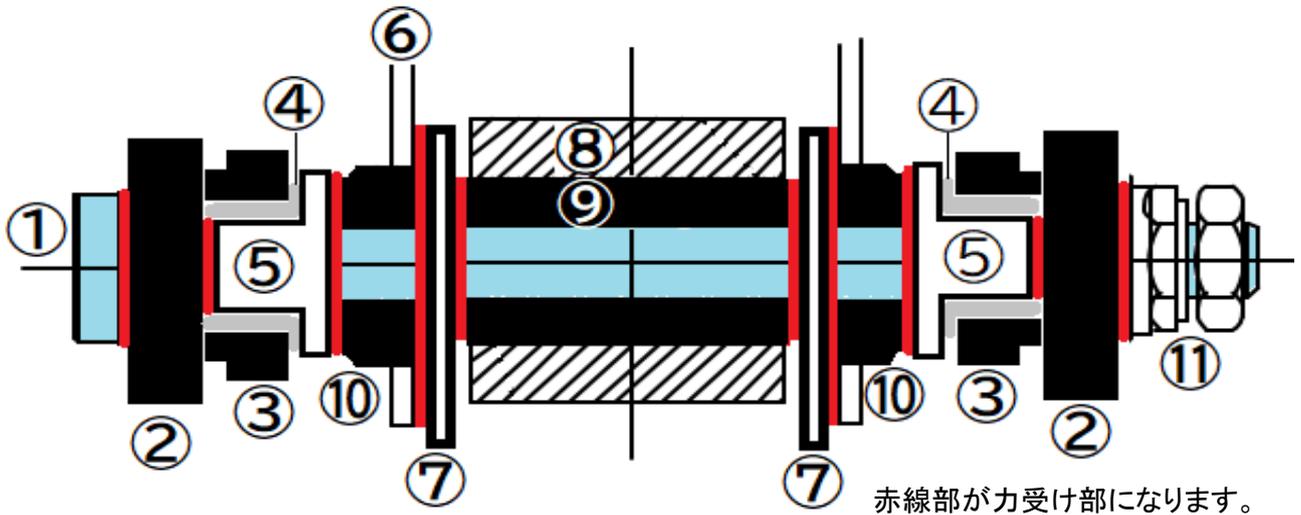
補足資料② ツーサイドリフトアクスルキット部品構成図

→部品構成図



- | | |
|--------------------|----------------|
| ①ピボットボルト(アジャストボルト) | ⑦ウェアプレート |
| ②リフトアクスルチャンバブラケット | ⑧トレーリングアーム |
| ③リフトアクスルレバー | ⑨トレーリングアームブッシュ |
| ④ブッシュ(ナイロン) | ⑩ハンガーボス(溶接固定) |
| ⑤ブッシュ(金属) | ⑪ハードロックナット |
| ⑥スプリングハンガー | |

→部品組付図



赤線部が力受け部になります。